

講演会
震災復興への道〜朝河貫一博士に学ぶもの〜

大震災後の 日本・ふくしまを 考える



●講演
直木賞作家 **安部龍太郎氏**
朝河貫一博士の
父・正澄と戊辰戦争

1955年福岡県生まれ。久留米高専卒業後、作家を目指して上京。東京都大田区立図書館に勤務しながら修行を重ね、90年に『血の日本史』で作家デビュー。2005年に『天馬、翔ける』で中山義秀文学賞を受賞。『関ヶ原連判状』『レオン氏郷』『蒼き信長』など著書多数。今年1月、安土桃山時代の絵師・長谷川等伯を描いた作品「等伯」（日本経済新聞出版社）で第148回直木賞を受賞。

Photo：日経出版



●講演
東アジア外交と
朝河貫一博士の警告

●講演
矢吹 晋氏
横浜市立大学名誉教授
1938年福島県生まれ。東京大学経済学部卒業後、東洋経済新報社記者、アジア経済研究所研究員、横浜市立大学教授を経て、2004年名古屋大学教授に就任。朝河貫一博士顕彰協会代表理事。朝河貫一とその時代「毛沢東と周恩来」「チャイナ・アメリカ」「米中結託と日本の進路」「尖閣問題の核心」「尖閣衝突は沖縄返還に始まる」など著書多数。



コーディネーター
福島テレビ代表取締役
糠澤修一氏

1940年福島県生まれ。63年に中央大卒業後、福島テレビ報道部に入社。95年報道制作局長、2007年より現職。朝河顕彰協会事務局長。



あさわか いち
朝河貫一博士とは

朝河貫一博士は、1873年（明治6年）福島県二本松生まれ。父親は二本松藩主として戊辰戦争を最前線で戦い、辛くも生き延びた真のサムライ朝河正澄、母親は信州田野口藩（現長野県）藩士、杉浦竹之進の長女ウタである。

正澄は、後に立子山小学校、当時伊達郡・現福島市の校長となり、三十数年にわたる子弟の全人教育を通して立子山村（当時）を東日本一の優良村へと導いていた。

貫一は、幼い頃からその父の薫陶を受け、四書五経・日本外史などかつて武士が学んだ素養地学問を徹底的に叩き込まれて成長する。福島県尋常中学校（現安積高校・郡山）時代の成績は優秀で卒業式（1899年）では英語で答辞を述べ、居並ぶ出席者を驚かせたという。

東京専門学校（現早稲田大学）を経て、アメリカに渡り、タートマス大学、イエール大学大学院に学び、後に日本人として初のイエール大学教授になった。

特に、1929年の英文の著書「入来文書」は日欧の封建制の類似点と相違点を明らかにした不朽の名著として知られ、これによって歴史学者としての地位は不動のものとなった。

一方、戦争の世紀に心を痛め、日米開戦を阻止する為にルースベルト大統領から昭和天皇に宛てて発信する親書の草案を提出するなど、国際社会の平和の提唱者として高く評価されている。

1948年アメリカ・ニューヘヴンにて74歳で永眠。

●日時
2013
12/3
火
AM10:00~12:30
入場無料 ※入場整理券が必要ですよ。



●会場
福島テルサFTホール
〒960-8101 福島市上町4番25号
(指定駐車場は限りがあります。公共交通機関をご利用ください)

●スケジュール
9:30 開場
10:00 講演（安部龍太郎氏・矢吹晋氏）
11:10 パネルディスカッション
「震災復興への道〜朝河貫一博士に学ぶもの〜」

往復はがきに氏名・住所・電話番号記入の上、NPO法人ターナー会事務局までお申込み下さい。はがき1枚につき整理券1枚となります。
〒960-0686 福島県伊達市保原町字竹内町58番地
特定非営利活動法人ターナー会事務局

入場整理券の受付/2013年11月1日より

主催/特定非営利活動法人ターナー会
協力/福島テレビ・NPO法人子ども未来クラブ
後援/朝河貫一博士顕彰協会
二本松市朝河貫一博士顕彰会

会場では、安部龍太郎氏、矢吹晋氏の書籍販売の他、サイン会も予定しております。